

## 会長挨拶



この度、第八代目会長として就任しました藤井義和でございます。会員の皆様、役員の皆様、そして関係各位の皆様どうぞよろしくお願い致します。

会長就任は大変光栄な事である一方、責任の重大さを痛感するとともに、59歳の若輩にとって、正直なところ一抹の不安も覚える次第でございますが、幸いにして三名の副会長と五名の常務理事、そして各支部長を中心

とした理事等立派な役員幹部を頂きました。私にとっては、主に30代前後の約10年間の青年部会時代並びに都市問題部会（現「地域づくりフォーラム 21 部会」）等で一緒に活動させて頂いた、無上の信頼を寄せる方々ばかりであります。役員等皆様方のご協力・ご支援を頂きながら、会員各位はもとより、社会のご期待を裏切ることの無いよう、本会の発展に全力をつくす所存でございます。

本会は、会員の協力によって、建築士の業務の進歩改善と品位の保持向上を図り、建築文化の進展に寄与することを目的としております。

この目的達成に向けて、取り組まなくてはならない大きな課題は、財政問題と公益法人改革対応であります。とにもかくにも会員増強（現在、賛助会員を含め約1700名）が必至の課題であります。しかしそのためには、現在の会員が自ら愛し誇れる会となることであり、そして、会員一人一人が自信をもって周りの建築士に会への参加を呼びかけることが出来るようになることであります。

そのため、この度「集い」というキーワードの旗を立てさせて頂きます。会員増強や社会へのアピールには、先ず現会員が魅力を感じて参加し、活発に活動する会でなくてはなりません。今後、こうした志で行われる様々な集いを大切にして参りたいと思います。また各役員は、それぞれの立場でそのための環境づくりに取り組む必要があると考えています。皆様のご理解・ご協力とご支援を強くお願い申し上げます。

その他行政や関係団体と連帯した地域実践活動の推進や継続能力開発（CPD）制度及び専攻建築士制度の社会的活用の推進等を重点施策として、関係事業を積極的に実施して参る所存でございます。

以上、所信の一端を申し述べさせていただきましたが、本会には、昭和27年設立以来、60年近くに及ぶ長い歴史の中で蓄積されてきた伝統と誇りがございます。これを守り、さらに新たな伝統として私どもに引き継いで頂いた、黒住隆前会長をはじめとする役員の皆様のご苦勞に敬意を表しますとともに、これをさらに発展させることをお誓い申し上げ、会長就任の挨拶といたします。

平成21年5月26日